

大学における英語指導法の事例研究

片 桐 哲 郎*

A Case Study of English Teaching Methods at This University

Tetsuro Katagiri

There are various ways of teaching English, for example: Translation Method, Direct Method, Phonetic Method, Psychological Method and even the Silent Method.

How to teach English is just as important as what to teach. Textbooks should be an enjoyable media between how to teach and what to teach. The most important thing to remember is that we can have a great influence through our teaching methods, which are advantageous for all students. Students' abilities vary not only in their English but also basic learning and attitude year to year.

Both long and short term goals should be given to students. Keen interest and intention should be maintained while providing basic English ability. Prior to this, students' mature learning attitude should be established before starting class.

This is a brief overview of my English teaching method that I have adopted at this university.

1. はじめに

「人を見て法を説け」という言葉がある。人と会話をするときも、講演をするときも同じであろう。まして、学生に授業をするときは最も考慮すべきことである。どんな名講義も学生が傾聴しなければ意味がない。学生にどれだけよい影響を与えたかが問題である。

学生の立場から言えば、学園生活、とりわけ、授業からどれだけの教育内容が学習できたか、また、どれだけの教育的感化を受けたかが重要である。学生は、わかる授業、興味が持てる授業を熱望している。したがって、私たちは、時代の流れを認識し、学生の学力を考慮して、興味ある、有意義な授業を進めなければならない。

英語科の場合、英語の不得意な学生から実用英語検定2級程度の学生まで、能力は千差万別である。そこで、このような学生に、高遠な志と身近な目標を与え、興味・関心を喚起し、英語の基礎基本を効率的に学習させることが課題である。そのための基本的な学習態度も徹底して指導する必要がある。

* 教養部

2. 現 状

「基礎英語」は、英語が不得意な1年の応用理科学科学生を対象とした2単位の補習的講座である。「総合英語」は、1年の電気科、機械科、応用理科学科の学生を対象にした講座で、前期と後期それぞれ2単位の講座である。「時事英語」は、2年の電気科、機械科の学生を対象とした4単位の講座である。

現状の概要は、下記のとおりである。

- | | |
|-------------|--------------------------------------|
| (1)科目名 | 「英語基礎」,「総合英語」,「時事英語」である。 |
| (2)クラス規模 | 40～50人のクラス規模である。 |
| (3)テキスト | テキスト「 <u>すぐわかる英語のポイント110</u> 」を使用する。 |
| (4)英語の能力 | 中学卒業程度から高校3年程度までの能力である。 |
| (5)基本的な学習態度 | 学習習慣ができていない。(辞書の引き方,音読,学習の仕方) |
| (6)基本的生活習慣 | 基本的生活ができていない。欠席や遅刻の多い学生もいる。 |
| (7)一般的な性格 | <u>素直な性格</u> で,授業妨害もなく,教師の指示に従う。 |
| (8)学習意欲等 | <u>英語の必要性を自覚し,向上心は認められる。</u> (資料4参照) |

3. 私の授業の3つの指導目標と教育実践 (資料1参照)

上記の現状の下に、福井工業大学の学生に英語の基礎基本を習得させ、21世紀に生きる国際人としての教養を身につけさせることが重要である。その際、本大学の「建学の精神」にも掲げてあるように、人間教育の知徳体の中で、「節義を重んずる人格の育成」という徳育にも重点を置かねばならない。

そのためには、すべての基盤である生活指導にまず力点をおき、時には、人生・教養指導も加味しながら、英語の指導に当たらなければならないと考える。つまり、「英語を教える」から「英語で教える」という姿勢で臨む必要がある。その英語力もあまり欲張らず、少なくとも「英文が音読でき、辞書があれば何とか意味が取れる能力」を主として習得させたい。しかし、教師だけの一人相撲になっては効果は薄い。学生に授業の到達目標を明示し、彼らのコンセンサスを得て授業を進める。学生と約束したルールは単純明快で無理なく、学期中一貫して実行する。TEACHING PHILOSOPHY を学期初めに提示する。

(1) 生活指導 (基本的な学習態度の定着)

ア. 欠席や遅刻の防止に努める。学生の本務は授業にあることを自覚させ、出欠の実績は評価の対象とし、欠席や遅刻の抑止力にする。(資料1参照)

イ. 講義は、顔を上げて「目で聞く」ことを毎時間励行させる。これができると、進級も卒業も容易になることを悟らせる。耳だけで聞けば、雑念が入って理解が薄れる。

ウ. コミュニケーション能力の育成に努める。言語や行動の明確化をはかり、基本的な挨拶の「はい」「こんにちは」「ありがとうございます」「すみません」などを教室の内外を問わず機会をとらえて、励行させる。

エ.自発的、独創的発言やボランティアを奨励する。(資料1参照) 欧米の生徒や学生は、自発的に質問、意見、感想などを発表するが、日本の場合、自己表現や自己主張する能力に欠けているように思われる。

(2)英語指導 (英語の基礎基本の習得、興味・関心の喚起、英語学習の方法の指導)

ア.辞書とテキストは、授業中に常に携帯すべきものである。英語学習の基本的な学習態度と自覚させ、その携帯をルールとし評価の一部とする。(資料1参照)

イ.音読の励行をする。テープレコーダ、コーラスリーディングで音声練習するが、実際問題として学生の声あまり出ない。今後の指導上の課題である。

ウ.英語構文の仕組みを理解させるために、英語の語順に注目させ、特に、5文型や基本文の暗誦、機能的文法の活用などを図って、英語の文の仕組みを体得させる。テキスト「すぐわかる英語のポイント110」は、その線に沿ったものである。

エ.テキスト中の英会話の教材である日常英語会話(1),(2)の音声指導と実習は、実用性もあるので関心も高く、声も比較的に出るようである。

オ.英語学習の楽しさを授業の随所に取り入れ、教師自らが鑑賞し感情移入を図るようにする。英字新聞やインターネットのニュースを英文で読み取る楽しさや英語の歌(クリスマスキャロル、ポピュラーソング、ジャズ)の歌詞の朗読や歌唱の楽しさを時折取り入れる。

(3)人生・教養指導 (人生の生き方の暗示、蓄積された人生経験の開示)

ア.人生の先輩として、人生経験の開示を通して、学生がこれから生きるための指針や教訓を伝授していく。教科の詳細な内容より、将来大きな力になる場合がある。そして現在の教師の姿勢が学生への生きるモデルでもあることを自戒としている。

イ.一般教養の広さが、英語の内容理解に不可欠であることを理解させる。また、学習や研究の楽しさ、好奇心や疑問の大切さ、意思伝達や独創性の大切さも時折触れる。教師自身がそれらが楽しいことを身をもって示すのことが大切である。

ウ.実社会へのオリエンテーションとして、社会への旅立ち、希望と不安、人生の厳しさと楽しみ、社会への貢献(社会から受けてきた恩を返す)等を機会をみて話す。

4. 英語の指導上の留意事項

A. 教科指導

(1)「英語を教える」から「英語で教える」への転換が必要である。生活指導や学習態度の指導が教科指導の前提条件になるからである。また、人格の育成の点からもこの姿勢は堅持されるべきものとする。人間教育の知徳体の中、知育がどんなに優れていても、徳育が劣っている意味がないからである。

(2) Minimum essentialsを限定し習得させる。基本的な単語、5文型、基本文等を暗唱させる。基本的にしなければならないことは全員に要求する。そのことが、「急がば

回れ」に通じると思う。少なくとも辞書があれば、何とか英文の意味が取れる能力だけは到達目標としたい。(英語の仕組みの理解)

(3) 英語の4技能(listening, speaking, reading, writing)のバランスの取れた指導, 特に reading と音読に重点を置いている。(英語の基礎)

(4) 学期の初めの授業に, TEACHING PHILOSOPHY(資料1参照)を配布し, 学期の英語の指導方針と評価法および到達目標を説明し, 学生の理解とコンセンサスを得る。

B. 教科指導の土俵づくり

(1) カウンセリングマインドで学生との対話に努める。英語の不得意な学生にはやさしく, 劣等感を持たせない。英語ができないことで叱りはしない。英語の不得意は, ひとり学生だけの問題ではない点もある。そこで, 現在の英語力の地点から, どれだけ学習に努力し, それなりの成果を上げたかを評価したい。

(2) 正常な学生は, 心身共に厳しく鍛える必要がある。「心豊かで, たくましい青少年」, 「生きる力」(文部科学省, 学習指導要領)の育成が求められているが, 今日, 正常な学生でさえ, 不登校の学生の影で, 甘やかされているような傾向もある。

(3) 指導上の約束は学期を通して実行すべきものである。教師は実行できないことは言わない。指示したことは, 自信を持って最後まで徹底する。

C. 英語の基礎基本(Minimum essentials)について (私見)

(1) 英語が必要になった時, 何時でも学習ができる能力 (基礎基本の真髄と考える)

(2) 辞書さえあれば何とか意味が取れる能力 (インターネット英語, 専門原書, 英字新聞等の講読)

(3) (実用英語検定3級程度の英文や英会話の理解と運用能力)

(4) 簡単な文法事項の理解と習得 (5文型, Be 動詞, 一般動詞, 時制, 進行形, 不定詞, 関係代名詞等)

(5) 「すぐわかる英語のポイント110」に基礎基本を明示する。すなわち, 中核文法 (常に重要な文法事項) と 周辺文法 (補助的に必要な文法事項) とを使い分け, 機能語 (公式の演繹法) の活用によって, 効率的に英語をマスターする近道を提示している。

D. 英語の授業評価について

学期の終わりに, 授業評価の作文を下記の項目により学生に記述してもらう。このことは6年前から実施している。学生の生の声を参考にしながら, 自己反省を加え Student-oriented education を目指して, よりよき授業を構築していきたい。

(1) 授業の総括的感想

(2) 授業から, 特に英語の何を学習できたか。

(3) 英語以外の話から, 何を学んだか。

(4) 評価法についての意見と感想

この他にも, 昨年から本大学で一斉に実施している「学生による授業評価アンケート」

を実施している。

5. 期待される成果（生活指導、英語学習、人生教養の3つの柱）と実績（主として「授業感想文」と「英語の学習について」の内容及び行動の変容より判断）

A. 生活指導

- (1) 授業中、姿勢を正して、目で講義を聞く。この指導で、寝ていたり、遊んでいる学生はいない。最初はつらいと言っていたが今は大分慣れている。
- (2) 欠席や遅刻の歯止めに効果が期待できる。（評価の対象としている）（資料1参照）
「月曜の1時限であったが、この評価法のお陰で、どうにか休まず受講できた」という学生が少なからずいる。
- (3) 教師の質問への優れた正解や学生の優れた質問、提案、意見、アイディア等を評価する。発表力や積極性が出てきた。（一人平均年5回程度）授業終了後、授業についての質問、感想、意見を言う学生が少しずつ増えてきている。
- (4) +1（優れた発表者、正解者、提案者等に与える評価点）の学生には、授業終了後、授業の感想を一言求める。これは、先生と話す機会や日本語の表現力の養成にも役立ち、学生は好意的に参加する。教師と学生とのレポートに役立っている。

B. 英語指導

- (1) 5文型は例文とともに暗唱するので、英語の語順が自然に頭に残る。掛け算の九九と同じで、基本的なことは再三繰り返す指導が望ましい。
- (2) 辞書や教科書を忘れる学生はほとんどいない。当然しなければならない基本的なことは、全員に平等に要求する。この部分を安易に例外を設けると、学期末に一定の目標に達することができないものである。（「英語の学習について」参照）
- (3) 辞書があれば何とか意味が取れるという自信が少しついてきた。英語は、語順が一番大事で、特に5文型の理解は最も重要である。後は、基本的な構文と辞書の引き方や学び方を学べば、自信が出てくるであろう。（「英語の学習について」参照）
- (4) 音読の効果は、声を出す態度から始めるが、まだ効果があまり上がっていない。工夫が必要である。テキスト中の日常英語会話（1）（2）は、実用英語であるので、学生は興味を示す。イントネーションやストレスなどの音声指導に最適である。
- (5) 英語への嫌悪感をかなり払拭しているようである。英語が好きになってきた学生もかなりいる。（「授業感想文」）英語の苦手意識が強いので、英語の劣等感を払拭し、授業が毎時間出席して良かったと思える授業の工夫をする。学生一人ひとりを大切にしている実感が学生に感じ取れるよう努める。

C. 人生・教養指導

- (1) 教室外でも、先生に、心から挨拶ができる学生が増加している。エレベーターの前、廊下、学生食堂、通路等で、学生が挨拶したり、会釈をする学生も増えてきた。
- (2) 教材に関連して、政治経済学、心理学、天文学、文学、哲学、工学及び人生観等に言

及することがあるが、幅広い教養が生きていく上でいかに大事かを理解させる。知ることの喜びや好奇心の大切さを学生に共感できるように努める。

- (3) 小テストや定期試験で、やる時はやるという集中力が少し身についてきた。実社会に出て大事なことは、「やる時はやるぞ」という気構えと精神的な集中力である。そのためにも、心身が健康で、来るべき試験には全力で打ち込むことが大切であると説いている。(「英語の学習について」参照)

6. アンケート集計の分析から

「英語の学習について」という学生アンケートを、平成 14 年 10 月 15 日に福井工業大学 1, 2 年生 159 名を対象に無記名で実施した。テーマ「A. あなたの英語学習について」と「B. 大学の先生について」のアンケートを取って、学生の意識がどのようなものであるかを調査した。授業の改善に役立つ資料が多少得られたので、その一部を紹介したい。

<程度をあらわす段階>

5 非常に大 4 比較的大 3 普通 2 比較的小 1 非常に小

A. あなたの英語学習について

1. 英語が嫌いになってきたと思われるのはいつ頃ですか。

中学 1 21% 中学 2 38% 中学 3 17% 高校 1 11% 高校 2 6%
高校 3 7%

中学校の時が、全体の 76% である。特に、中学 2 年の時が英語の好き嫌いの分岐点になっている。英語は、中学英語からスタートする気持ちで指導すべきでしょう。

2. 英語は将来必要になってくるから、できれば勉強したいと思いますか。

5 28% 4 39% 3 25% 2 7% 1 1%

できれば勉強したいが、全体の 67% である。漠然とした英語の必要性は認識しているようである。英語学習の潜在的な動機は、多少あると考えられる。

3. 英和辞書があれば、何とか英文の意味が取れるようになりたい。

5 26% 4 40% 3 31% 2 3% 1 0%

英和辞書があれば、全体の 66% である。必要最小限の英語力だけは身につけたいと思っているらしい。英和辞書があれば、実は最小限にみえて最大限かもしれない。

4. 簡単な英語会話ができるようにになりたい。

5 42% 4 34% 3 21% 2 3% 1 0%

簡単な英語会話が、全体の 76% である。将来の海外旅行や海外出張等考えているのかもしれない。英語指導のバネの一つにしたいところである。

5. 英語の辞書を教室に毎回持参していますか。

5 81% 4 10% 3 5% 2 3% 1 1%

英語の辞書は、全体の 91% である。嬉しいことに、辞書を忘れる学生は、皆無に近

い。基本的な学習習慣として位置づけている。辞書の引き方も全員揃って指導できる。

6. 前回の期末試験で、中学校高校を通して最も集中して勉強できましたか。

5 14% 4 26% 3 42% 2 11% 1 7%

前回の期末試験で最も集中は、40%である。あまり集中できなかったのは、わずかに18%であった。私は学生の英語力をかならずしも問題にしていない。むしろ、しなければならぬことを集中して全力で努力することが最も大切であると説く。つまり、「やるときはやるぞ」というど根性こそ今の青年に求められているのではないか。

B. 大学の先生について

1. 明るくて元気のよい先生がよいですか。

5 37% 4 39% 3 22% 2 2% 1 0%

明るくて元気は、全体の76%である。年齢を特に問題にしているのではないと思う。教室に入ったら、明るい表情で、しかも元気よく授業を進める態度が歓迎されているようである。

2. 学生のやる気(興味・関心)を引き出す先生がよいですか。

5 36% 4 41% 3 20% 2 2% 1 1%

やる気(興味・関心)は、全体の77%である。やる気を引き出してくれる先生は、いつの世にも求められる。学生自身も、何かをしたという成就感を求めている。生涯学習時代における大学教育には、授ける知識の量ではなくて、興味・関心を引き出し、自ら問題を見つけ解決していく態度と方法を指導することが求められていると考える。

3. 学生の学習態度を時々注意してくれる先生がよいですか。

5 13% 4 30% 3 38% 2 12% 1 7%

時々注意しては、全体の43%である。否定的な答えは、19%にとどまっている。授業中に寝ていたり、私語している学生がいるのを黙認しているのは、学生にとっても不愉快で、何とか注意して欲しいと思っている。

4. 英語の基礎基本をわかりやすく教えてくれる先生がよいですか。

5 43% 4 37% 3 16% 2 3% 1 1%

英語基礎基本は、全体の80%である。基礎基本をわかりやすく教えてくれる教師を求めている学生が、80%にもなるのに驚いている。全般的に学力が低下していることや実業高等学校からの入学生が過半数を占めることも手伝って、現在の授業内容と指導法に学生がついていけない現状である。

5. 先生の発声が明瞭で、聞きやすく、わかりやすい先生がよいですか。

5 42% 4 40% 3 17% 2 1% 1 0%

明瞭で、聞きやすくは、全体の82%である。学生の方にも聞く態度が不十分であることもあるが、明瞭で、聞きやすく、わかりやすい教師を82%もの学生が求めている。学生の注意を十分ひきつけて、強弱をつけながら説明し、時には、意見を言わせて、ま

た、実習も交えて、学生参加の授業になるよう心がけるべきであろう。

6. 時にはユーモアを入れて、授業する先生はよいですか。

5 43% 4 34% 3 20% 2 3% 1 0%

時にはユーモアは、全体の77%である。明るくて元気のよい教師を求めていると同様に、時にはユーモアを入れて授業する先生を求めている。特に、英語の教師は、欧米文化の一つとして、a sense of humor は、欠かせないものであろう。

7. 先生が、人間的にも魅力がある先生がよいですか。

5 33% 4 42% 3 23% 2 2% 1 0%

人間的にも魅力については、全体の75%である。学生にとって、教師は最も身近な生き方のモデルの一人である。両親も友人もその一人である。しかし、今日、父親不在観がささやかれる中、大学の教師に一種の父親像も求めながら、不確実性の世の中で、自分自身の生き方を模索しているのではないか。

7. おわりに

英語の指導には、いろいろな方法がある。富士の登山にもいくつかの登り口がある。ただ忘れてはいけないのは、誰に、何のために、何を教えるべきかを常に問い直しながら、指導法を工夫すべきものとする。

学生の学力、興味・関心、心身の状況等は、微妙に毎年変化している中で、最もよい指導法は何かを模索し続けることがわれわれ教師にとって重要であろう。私自身、自己反省することが多く、明日にあるべき姿を求めて、この小論をまとめているのである。

要は、学生一人ひとりが授業を受けてよかったという成就感が得られるように、愛情をもって指導し、教育と研究に取り組み、今後とも授業改善に努めていきたいと考える。

8. 参考書

- | | | |
|--|-----------------|----------|
| (1) 教育学概論 | 佐藤弘毅, 谷田貝公昭 | 酒井書店・育英堂 |
| (2) 教育原理・教職論 | 岡田正章, 笠谷博之 | 酒井書店・育英堂 |
| (3) 授業を変えれば大学は変わる | 安岡高志 | プレジデント社 |
| (4) The Art of Teaching | Highet, Gilbert | Methuen |
| (5) How To Teach English | Jeremy Harmer | Longman |
| (6) Teaching English for World Citizenship | Kip Gates | lecture |
| (7) すぐわかる英語のポイント110 | 片桐哲郎 | 青山社 |

資料1 (学生の理解と協力を得る指導方針)

TEACHING PHILOSOPHY

Tetsuro Katagiri

1. TEXTBOOK

110 KEY POINTS IN LEARNING ENGLISH (Katagiri, 2002)

2. GOALS FOR THIS CLASS ARE THAT:

- (1) English can be read aloud.
- (2) English is understood by using an English dictionary.
- (3) The four fundamental skills of English are attained. (Listening, Speaking, Reading and Writing)

3. SUBJECTS(modern English)

Current English, General English and Basic English

4. ATTENDANCE REQUIREMENTS (in case of Current English)

More than 1/3 of all classes a year must be attained.

i.e.: 1st semester 15 classes + 2nd semester 15 classes = 30 classes a year

30 classes \times 1/3 = 10 classes

5. PARTICIPATION REQUIREMENTS

- (1) Diligence
- (2) Prepare and review.
- (3) You must use an English dictionary.
- (4) Read aloud.
- (5) Never disturb other students learning.

6. MY TEACHING ATTITUDE

I am relaxed but firm, and warm-hearted.

Welcome to sit at front of classroom and to ask questions and share opinions anytime.

7. EVALUATION (Select one of the two courses as follows.)

- (1) Ability Course (the range of the exam is not limited.)
- (2) Learning attitude + Ability Course (the range is quite limited.)

If you choose (2) Learning attitude + Ability Course, it will be as follows.

$$E = \frac{(A+B)}{2} - (5X + 3Y) + Z + T \geq 50 \text{ (可)}$$

E = the evaluation

A = the marks of the former examination

B = the marks of the latter examination

X = the number of classes absent

3 L = X (L = a latecomer)

Y = the number of attendances without a dictionary

Z = the number of your remarks(excellent opinion, idea ,impression,
kind act etc.)

T = small tests / quizzes(1 ~ 5)

8. RANGE OF EXAMINATION QUESTIONS (specify before the test)

- (1) Translation(English into Japanese)
- (2) Comprehension Exercise(grammar)
- (3) Basic new English words in the textbook(40 words)
- (4) Insert a suitable word into the blank.
- (5) Some applied questions

資料 2 (In order to be a good teacher of English)

How to be a good teacher

1. How to be a better teacher

Teachers should make their lesson interesting so that students don't fall asleep.
A teacher must love his/her job. If he/she really enjoys his/her job that will make
the lessons more interesting.

2. Students' impression

Students like a teacher who has his/her own personality and doesn't hide it from
the students so that he/she is not only a teacher but a person as well – and it
shows through the lessons.

Students like a teacher who has lots of knowledge, not only of his subject.

A good teacher is an entertainer and they mean that in a positive sense, not a
negative sense.

3. Characteristics of a good teacher

A good teacher is somebody who has an affinity with the students that they are
teaching.

A good teacher should try and draw out the quiet ones and control the more
talkative ones.

A good teacher should be able to correct people without offending them.

A good teacher is someone who helps rather than shouts.

A good teacher is someone who knows his students' names.

A good teacher learns how to manage students and how to control boisterous
classes which is one of the fundamental skills of teaching.

(平成14年12月2日受理)